

骨粗鬆症と診断され 治療薬服用中

山下 二男 予科6-9
(所沢市) 航空16-3

19年前食道癌を患い、平成5年5月食道の全摘出手術をした。手術前の体重は53kg程度だったのが、術後は激減して大体40kgを前後していた。胃や腸を切除した人の話では、年月がたてば食事量も増え、体重も元どおりには回復しなくとも少しは増えるものだと思っていたので、そうなるだろうと期待し、せっせと体重の回復に努めたが一向に増えることなく今日まで推移した。

手術以降経過観察のため、年1回胃検診を受けていたが、これまで異常があると診断されたことはなく、大変幸せなことだと喜んでいて次第であった。

ところが、平成23年6月定期的な検診を受けた際、体重が増えないので、医師の勧めもあり、骨粗鬆症の検査を受けた。結果は「骨密度は同じ年齢者の平均密度と比較して70%に相当」ということで骨粗鬆症の治療を受けることになった。

今まで骨粗鬆症は高齢なご婦人方がなるものと思い込んでいたので、ショックを受けたのは偽らざる心境である。

治療方法は次の2種類の薬を継続して服用することであるが、現在他に消化剤を毎日飲んでいるので、面倒くさいがこれも仕方ないことと諦めざるを得ないと思っている。

①ワンアルファ錠0.5μg（ビタミンDが不足した時の諸症状を改善）1錠/毎日

・夕食後服用。

②ボナロン錠35mg（骨からカルシウムが溶け出すのを防ぐ）1錠/1週間毎・起床後服用。

上記薬剤を服用して半年経った昨年12月、血清と尿検査の結果「デオキシピリジノリン」の測定値が基準値内に収まり、その効果が出たのだとの医師の話だが、だからと言って薬の服用を止める訳にもいかず飲み続けようと決心してる次第。

何だかんだと言っても健康と元気が第一、これからも頑張りたい。